

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892500125		
法人名	株式会社 グリーンフィル		
事業所名	グループホーム サングリーンピア大宮		
所在地	茨城県常陸大宮市若林952-1		
自己評価作成日	平成28年1月20日	評価結果市町村受理日	平成29年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成29年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が理念を共有して、利用者様、ご家族様のニーズに添って介護をさせていただいております。特に家庭的な雰囲気での生活を心がけています。また、季節感を味わっていただけるように、外食、ドライブ、毎月の行事を計画しています。

春には露の臺や山菜取り、秋には栗拾いなど自然に囲まれた里の暮らしを楽しんでいる1ユニットの家庭的なホームである。平成15年から運営されているホームは自治会に入り、地域の子どもたちとホーム前の広場で花火と一緒に楽しんだり、登校途中の子どもたちに声をかけたりとイベントとしての交流はないが、地域の一人として自然に地域に受け入れられている。家族は友人・知人と一緒に訪問してハーモニカの演奏をしたり、飾り物などを持参して利用者の暮らしに潤いを添える等協力的で一緒にホームと利用者を支援している。職員は家族に利用者の近況やホームの様子を丁寧に伝え、介護計画などにも意見・要望を取り入れる工夫をして共に利用者のより良い暮らしづくりに熱心に取り組んでいる。利用者は家庭的な雰囲気の中で適切な医療を受けながら終末期まで過ごせることで安心して趣味を楽しみ、役割のある充実した日々を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員、理念を共有し、毎日が家庭的な雰囲気であり、入居者様の健康維持に努めて生活している。	全職員で考えた『家庭的な雰囲気の中で生き生きとした生活が送れるように…』等を記した4つの項目からなる理念を掲げ、毎月の職員会議で共有を図り、利用者との日々の関わりは常に理念を意識しながら実践できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	在所地区長、民生委員、市役所職員、地域包括職員他と二か月に一度の情報交換を実施。また、近隣の介護施設との交流も行っている。	自治会に入り日頃から地域の一員としての近所付き合いを行っており、ホーム前を登校する小・中学生に「行ってらっしゃい」等の声掛けをしたり、ホーム前駐車場で花火を楽しむ利用者に近所の子どもたちも加わり一緒に花火を楽しむ等無理のない付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	季節行事を行いながら、ご家族様、ボランティアの方などを通して、ご理解や支援を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、実際に困っていること、具体的な支援方法を体験していただきながら、意見交換を実施し、サービス向上に活かせるように努めている。	区長や民生委員など地域の方々の出席の下で、同法人の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。ホームの活動状況などを報告・説明し、出席者から気づきや提案を頂きサービス向上に活かしている。家族の出席はないが議事録の送付など丁寧な対応が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡協議会、また地域ケア会議等に参加している。情報交換、研修を通してながら協力関係の構築に努めている。	運営推進会議を通してホームの実情や取り組み状況を伝えると共に、市内のグループホーム連絡協議会や地域ケア会議、市で開催する研修会などへ出席して、情報の収集や交換を積極的に行う等、常に協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	他施設との意見・情報交換を通して正しく理解している。また、ご家族様からの同意書を取り交わしている。	『身体拘束その他の行動制限廃止マニュアル』を備えて再確認の機会を設け、常に拘束についての意識を喚起しながら拘束のないケアを目指した取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市を中心とした研修、情報交換に参加しながら、マニュアルの再認識をするなど職員全体で意識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設の利用者様を通し、成年後見制度を学んでいる。日常の問題点を話し合いをとおし、利用者の安全の確保できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約者さまからの問い合わせがあれば、その都度真摯に対応し、ご理解・納得をいただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、各行事等の際はご家族様にはその都度参加依頼・要望を紙面を通して依頼している。また、来訪時にもご意見をいただいている。	利用者からの意見はその都度聴きながら行事等に反映させている。家族には毎月の利用料金のお知らせ時に利用者の近況写真を添えた手紙を送り日頃の様子を知らせたり、運営推進会議や各種行事の案内書には家族の要望などを書き込めるような工夫をして、気づき等を含めて何でも話していただけるような取り組みをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の全体会議や朝の申し送り時、またその都度意見や提案事項を話し合い、検討し実施している。	全職員が参加しての会議を毎月実施しており、それぞれが意見や提案を言いやすい機会づくりを行っている。大掛かりなことでは浴室の改築や床の張替えなどに職員や家族の日頃からの要望が取り入れられた。さらに職員の採用なども職員の希望が取り入れられ実現されている。その他勤務のシフト作りなど様々な場面で職員が率先してより良いホームづくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年々職員数の減少で、一人ひとりの労働時間の延長が増している。その中で、より働きやすい職場環境を整えるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員への声掛けや若年職員指導育成に気配りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会、近隣施設との交流、研修会等の参加を通しての質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の訴えや要望に耳を傾け、ご本人の希望をできるだけ取り入れられるようにコミュニケーションを大事にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っていること、不安・要望等があるその都度、またはケアプラン作成時にもご家族様の要望等を必ず聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様の要望の必要性を冷静に判断し、ご理解いただける対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にあるように、常に家庭的な雰囲気の中での生活ではあるが、人生の先輩としての尊敬の気持ちを持って、接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係を大切にしながら、来訪されたときには居室でのご家族だけの時間を過ごしていただいている。また、コミュニケーションをとり、よりよい関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が生活してきた環境や人物など、馴染みの話や、外出に心がけている。	近くにある同法人施設のデイサービスに来る友人が訪ねてきたり、家族や友人・知人が気軽に訪問している。家族や友人の中にはホームの飾り物を作ってくれる人やハーモニカを演奏して利用者を楽しませてくれる人もいる。外出計画時には利用者の思い出の場所なども聞きながらそれぞれの懐かしい場所などを訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の趣味や、相性、個性などを考慮し座席を決めている。リハビリ体操や歌などはテーブルを囲んで行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様に対しても、可能な場合は面会をしたり、様子を伺っている。また、ご家族様にも状況を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本調査をもとに、望む暮らしに添えるために希望などについては、ご本人の様子を観察しながら、つねに意向の把握に努めている。	持病などにより多少の制限はあるが、日々の話の中から本人の希望を聴き、散歩や外出・外食、趣味の継続などを暮らしに取り入れている。言葉で思いを伝えられない利用者の中には毎日の暮らしの中で「好き・嫌い」などを表情などから判断し、担当職員を中心に職員間で本人本位の話し合いをして安心した暮らしができるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時にいただいた「私の基本情報シート」などを主に、生活歴や馴染の暮らし方、生活環境などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	長く入所されている利用者は心身共に変化しているため、その都度個人記録に記入し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の課題にたいし、必要な関係者と話し合い、意見を聞き、一人ひとりにあったケア確認表を作成し、モニタリングをふまえながら、介護計画を作成している。	本人や家族の希望を取り入れ、担当職員の気づきや担当者会議で出された意見などを基に計画作成担当者が利用者それぞれの趣味などを取り入れた暮らしに反映できる介護計画を作成している。作成された介護計画は「訂正点や取り入れたい希望があれば書き込んでください」の一文を入れて家族に送付し確認して頂いている。毎月の職員会議ではケア確認表でモニタリングをしながら定期的な見直しを行い、薬が変わった時など利用者の状態に合わせた見直しも随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりのケア確認表を作成し、月に一度の反省と見直しを実施し、必要に応じて話し合いを設け、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の健康状態、ご家族を含めた生活環境などに最も適したサービスの提供のために、サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容の実施。ミュージックケア、餅つき、獅子舞のボランティアの訪問をうけるなど行っている。訪問歯科などを検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できる限りかかりつけ医の受診を継続している。利用者の急変時には、家族と相談しながら適切な対応をしている。	かかりつけ医への受診は本人・家族の希望により実施している。医療機関への送迎・付き添いは基本的には家族が行っているが、職員が同行受診する場合もある。訪問看護師が毎週訪れ、利用者の健康状態を把握し、常に適切な医療を受けられるようにしている。利用者の状態は受診記録により本人・家族・職員で共有しており、緊急時にも対応できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護の契約のもとで、利用者の体調管理をしている。また、体調の変化や急変時にも相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、ご本人の様子伺いをしながら、相談員との情報交換をするなど関係づくりに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の体調の変化によっては、もしもの時の心構え・対応の仕方等を職員間で、またご家族様にもご理解いただけるように努めている。今までに、看とりは行っておらず、急変時は救急搬送をする。	重度化や終末期のケアについては職員間で勉強会・研修会を実施して十分な備えをしている。重度化に伴い、家族や看護師が関わり、個別の緊急対応マニュアルを基にケア計画を作成し、全職員で統一したケアができるようにしている。急変に際しては救急搬送の出来る医療機関の確保もできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時はマニュアルに従い消防署に連絡をする。応急手当や初期対応は職員間で話し合いや実践をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。また職員だけではなく、応援担当者も交えて話し合いを設け、避難馬車の確認等もしている。	消防署と協力しながら定期的な避難訓練を実施している。消防署の指導の下で出火元を特定した避難訓練や夜間想定避難訓練など利用者の安全を確保するための具体的な訓練を実施している。上階に職員が住んでいる事や近くの同法人施設の協力等も得られる等近隣との協力関係も充実している。	ホーム全体が1階部分であり、長い外ベランダに全員が安全に避難できるようになっているが、ベランダから建物外に出やすくする工夫に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であることを念頭において、一人ひとりの性格を把握して利用者様の立場になって対応している。	利用者一人ひとりの性格やこれまでの暮らしを理解し、病気への制限以外は極力行動や言葉を受け入れるようにしている。居室のポータブルトイレには布のカバーをしたりオムツを見えるところに置かない等利用者の気持ちを大切に配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日には嗜好物等を聞き、メニューに取り入れることや、外食やドライブ等にも意見を聞き参考にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の減少に伴い、日中の生活パターンが変わってきているが、可能な限り受け入れ本人の希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、洗顔・整容の支援、援助をしている。また、担当職員が衣類の整理整頓、管理を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様にあった食事を考え、美味しく食べられるように工夫している。また、誕生日には一人ひとりの好物を伺い、メニューを考えている。野菜に皮むき、お盆のかたづけ等も一緒に行っている。	本部で作成した献立を基にホームで食材を購入し、利用者の状態や季節に合わせた食事を作っている。夏にはキュウリやナス・トマトなど利用者と一緒に育てた野菜を使ったり、民生委員など近所の住民から頂いた食材を加えて季節感のある食事を楽しんでいる。利用者に合わせて食べやすい大きさにしており、介助の必要な利用者へもさり気ない声掛けで出来るだけ自力で食べられるようなゆっくりした対応が見られ、和やかな食事風景だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設の栄養士のもと、一人ひとりの食事形態にあわせて栄養バランスを考えている。また、量や水分摂取にも注意を払って実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には義歯洗浄、歯磨きの口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗や紙パンツへの排泄を減らせるように、個々の排泄のタイミングをつかみトイレ誘導を心がけている。	日中は殆どの利用者がトイレで排泄しており、夜間もポータブルトイレを利用してオムツにしない支援をしている。居室で放尿する利用者の場合でも動きをキャッチしてトイレ誘導をしながら自立に向けた丁寧な支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をとり確認している。状況に応じて水分摂取や食事での工夫をしている。また、薬の服用で対応している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の減少から、都合また浴槽の状態で現在のところ利用者の希望に添えない現状ではあるが、可能な限り清潔保持に心がけている。	浴槽が大きいことで2人介助になり、入浴回数に制限があったが、近いうちに行われる浴室の改築に伴い、一人用の浴槽や介助器具なども整い、介護5の利用者の入浴や利用者の希望にそった入浴ができるようになる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由な時間に昼寝ができている。気持ちよく眠れるようにリネンの衛生に心がけ、環境にも注意をはらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を職員全員で共有し、生活や症状に変化がみられ、検討が必要な場合は家族や主治医と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や習慣、また体調を考えた役割を、ケア確認表の項目にいれている。職員とのコミュニケーションや歌なども楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を味わっていただけるように、散歩やドライブに出かける機会を設けている。また利用者様の家族に協力を仰ぎ家族との触れ合いの時間を大切にしている。	季節の良い時期は毎日のように散歩や広い駐車場で体操をしたり常に戸外に出ている。春には露の臺や山菜取り、秋には栗拾いなど恵まれた環境の中で自然を存分に味わいながら外の空気に触れる機会を楽しんでいる。利用者と相談して決めた行事としての外出は法人本部の大きな車を利用して全員で気分転換の遠出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭は施設で管理している。買い物で品物を選ぶ際は雑誌や本人の意向を聞いている。できる限り、付添での買い物を考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の際は、利用者様の元気な声も聞いていただけるように取次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上、日中でも日光があまり取り込めない状況であるが、室内温度や衛生面にも配慮している。季節や行事にあわせて、季節感、生活感をとり入れ楽しめる工夫をしている。	きれいに整えられている玄関は季節の花を活けたり、小さな飾り物を置く等で家庭的な雰囲気を出している。居間は椅子やテーブルの置き方の工夫でゆったりとした雰囲気を作り出しており、さりげなく置かれたソファなど寛ぎの場づくりも丁寧に行われている。時計・カレンダー・温度・湿度計等も見やすい工夫され、居心地よい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり、音楽を聞いたりする時はソファに座り、パズルや脳トレをする時はテーブルを利用するなど、自分の時間を楽しめるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の生活の雰囲気を継続できるように、使い慣れた家具や日用品を使用することを勧めている。仏具、遺影を置く利用者様もいる。換気にも注意している。	畳の居室とフローリングの居室があり、各居室には洗面台と大きな収納スペースがある。各居室は部屋の形に少しずつ変化があり、それぞれの特徴に合わせてベッドの向きを変えたり、家具の置き場を代えたりしながらそれぞれに住みやすい工夫をしている。仏壇のある部屋などこれまでの暮らしを大切にしている様子もうかがえた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間、安全を考え、自立排泄のためのポータブルトイレを設置している。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームサングリーンピア大宮

目標達成計画

作成日: 平成 29 年 5 月 10 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	ホーム全体が1階部分であり、長い外ベランダに全員が安全に避難できるようになっているが、ベランダから建物外に出やすくする工夫に期待したい。	ベランダからの緊急避難を考えると、ベランダの高さが17cmあり、職員による入居者の誘導には時間がかかってしまうものと思われる。ベランダに扉を設置するか、別経路の避難路の確保を早急に検討する。	消防署等の協力を得て、再度別経路の避難路も検討する。またベランダの避難路の設置が可能かどうか早急に検討する。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。